

秋の花苗の移植に適した鉢の大きさの調査

研究背景

植物が必要とする水分量は種類ごとに違うため、鉢の保水力は植物の生長の速さを大きく左右する。鉢の大きさの違いが生長に及ぼす影響を調べることで、その植物に適した鉢の大きさと灌水量を推測し過灌水による生長の遅れや枯死を防ぐことができる。

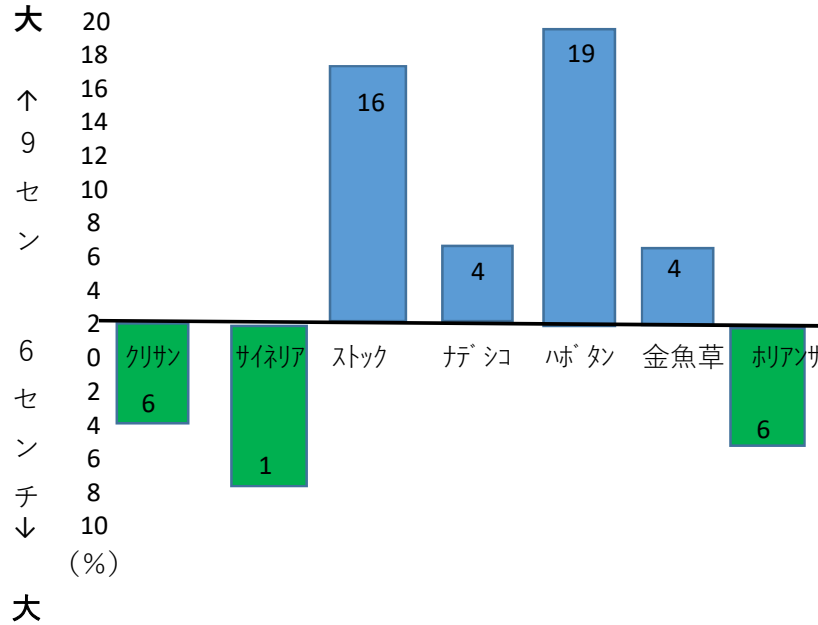
成果要約

秋の花7品種のうち、クリセマム、サイネリアでは6cmポットが生長が早く、ストック、ハボタンでは9cmポットの方が生長が早かった。特にサイネリア、ストック、ハボタンでは鉢の大きさによる生育差が大きかった。

今後の展望

栽培過程で過灌水により枯死する苗が多発する品種もあったので最適なポット、用土を総合的に検討し育苗の効率化を検討する。

概要



(図1) 秋の花苗におけ9cmポットと6cmポットの生長比較 (%)

【調査方法】

秋の花苗7品種(※1)を選び、稚苗を9cmと6cmの黒丸ポリポットに荒い土(※2)を用いて48株移植し、3~5週間後(※3)に長い葉と短い葉の長さを測定した。測定値から大きさの割合を算出し、その平均値をグラフ(図1)にして比較した。

【調査結果】

7品種のうち、4品種で9cmの黒丸ポリポットの方が成績が良く、特にナノハナ科のストック、ハボタンにおいて9cmポットの方が生育が特に良かった。逆にキク科では6cmポットの方が生育が良く、サイネリアでは生育差が顕著に現れた。また、クリサンセム、サイネリアでは9cmポットで栽培中に枯死するものが見られた。

(※1)試験栽培に使用した品種

クリサンセム：パルドサムノランド、サイネリア：プラネット混合

ストック：マムピンク、ナデシコ：テルスタースカレット、ハボタン：ルシールニラ

金魚草：キャンデトップローズ、ポリアンサ：アプリローズシート

(※2) 荒い土：普通土は当センターの花苗ポット栽培用に調製した標準用土を排水を良くするために荒くしたもので、赤玉土：鹿沼土：パーミキュライト：パーライト：ピートモスを4：4：2：2：1で混ぜ、マグアンプと有機石灰をそれぞれ、0.5%加えたもの。

(※3) 5週間後：ポリアンサは生育が遅延したため5週間後に測定

事業名

本調査・研究は、令和3年度 農業振興センター 農業振興事業（温室花苗鉢花試験栽培）により実施しました。

問合せ先

☆詳しい情報を知りたい、という方は下記までお気軽にご連絡ください。
 姫路市役所 産業局 農林水産部 農業振興センター 〒679-2111 兵庫県姫路市山田町多田1174番地47
 電話番号：079-263-2220 ファックス：079-263-2708 E-mail：engei@himeji.city.lg.jp